

学会記事

第17回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名～2名に贈られます。

第17回徳島医学会賞は次の3名の方々の受賞が決定いたしました。受賞者の方々には第234回徳島医学会学術集会（冬期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は本号（219頁～236頁）に掲載の予定です。

（大学関係者）



氏 名：松井尚子^{まつい なおこ}
 生 年 月 日：昭和49年2月4日
 出 身 大 学：徳島大学医学部医学科
 所 属：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部神経情報医学
 研 究 内 容：内科一般および神

経内科

受賞にあたり：

この度は第17回徳島医学会賞に選考して頂き、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

重症筋無力症（MG）は厚生労働省の指定する特定疾患のひとつで、胸腺との関連が指摘されている免疫性神経疾患です。しかし2000年 Neurology 誌において胸腺病変を伴わないMGにおいて胸腺摘出術の効果が不透明であるという報告がされました。近年免疫抑制療法の治療効果が期待されているなか、治療方法も多岐にわたっています。またステロイドの使用については、その使用時期、使用量には国内施設間でも非常に差異があると実感していました。2年前、徳島大学病院におけるMGの治療指針を検討しようという中根先生からの提案があり、私自身も率先して計画に加えさせて頂くこととなりました。まずは後ろ向き調査に取り組むこととなりまし

たが、このためには神経内科、胸部外科、生体情報内科（旧第一内科）の協力体制を築くことが不可欠であり、約1年をかけて、過去20年から遡り101例の症例を集めることが可能となりました。これらの症例をもとに、年齢別や胸腺組織からみた解析を中心に行った結果、近年高齢発症のMGが増加傾向にあること、また胸腺病理組織がMGの臨床経過の推測に有用である可能性が示唆されました。また胸腺摘出術については、胸腺病変を伴わない場合であっても、数少ないながら有用であるケースが存在することより、治療の選択肢から除外するのは時期尚早であると考えられました。胸腺摘出術の是非については、今年20年ぶりとなるMG全国疫学調査が予定されており、この結果も待たれるところです。

今回の受賞を励みに、臨床調査を基盤にMGの機序をより解明すべく、基礎研究にも邁進していく所存です。

最後になりましたが、今回の後ろ向き調査にあたり、二人三脚でデータ整理をお手伝い頂いた先生方、ご指導、ご助言頂きました病態制御外科学 近藤和也先生、生体情報内科学 松本俊夫教授ならびに神経情報医学 梶龍児教授に深く感謝申し上げます。



（医師会関係者）

氏 名：増原淳二^{ますはら じゅんじ}
 生 年 月 日：昭和43年1月17日
 出 身 校：救急救命九州研修所
 所 属：板野東部消防組合第2消防署

研 究 内 容：病院前心肺停止における救急救命士の気管挿管について、本県の現状と今後の課題

受賞にあたり：

この度は、名誉ある徳島医学会賞に選出していただき、選考委員の先生方をはじめ関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

私は、平成11年から救急救命士として救急業務に従事しております。

救急救命士法が施行されて救急救命士の資格を持つ救急隊員には救命のために限られた医療行為が認められており、その一つに器具を使った気道確保があります。平成16年からは、地域メディカルコントロール体制の下に

気管挿管が認められました。本県においても数名の気管挿管認定救急救命士が活動中です。この認定には学科講習と麻酔科指導医の下での臨床実習が義務づけられています。本県においては5施設において救急救命士の気管挿管実習が行われていますが、挿管成功30例という義務があり、また患者の同意が得られなければ挿管実習を行うことができず実習にも時間を要している現状があります。そこで本県における気管挿管認定の現状について発表させていただきました。

今回の受賞を励みとして、今後も病院前救護活動に貢献し、社会に救急隊活動の啓蒙を続けていこうと思っています。

最後になりましたが、今回の発表をご支援いただきました海部消防組合石川救命士、阿南市消防本部町田救命士、徳島市消防局平井救命士をはじめ県内の救急救命士の皆様、また県立中央病院救命救急集中治療科三村誠二先生、徳島赤十字病院神山有史先生はじめ諸先生方に深く感謝いたします。



氏 名：^{かわのみか}河野美香
 生 年 月 日：昭和24年12月14日
 出 身 大 学：徳島大学医学部
 所 属：河野美香レディース
 クリニック
 研 究 内 容：当産婦人科クリニッ

クから見た思春期の性の現状

受賞にあたり：

このたび、第17回徳島医学会賞に選考していただき、大変有難うございました。選考に関与していただきました先生方、さらに関係各位の皆様には厚くお礼を申し上げます。

今回、開業から4年4ヵ月のデータを集計、分析し、思春期の性の現状を発表させていただいた目的はふたつあります。ひとつは徳島県での現状を少しでも知ってもらうことです。いろいろなメディアで思春期の若者たちの性の惨状は語られていたものの、多くの人は「対岸の火事」の意識を持っていたと思います。一クリニックのデータのみで、徳島県全体を推測することはできませんが、当県の若者の性の現状も大人たちが考えている以上に深刻です。すでに対岸ではなく、私たちのまわりにも火の手はあがっていることを知っていただけたと思っています。ふたつめは、この現実を認識していただき、

今後、若者たちが性のトラブルを抱えることもなく、健やかに成人できますように、それぞれのお立場からサポートしていただけたらということです。

また私個人としましては、今後は、今回の受賞を励みに、微力ですが、青少年の健全な生活を少しでも支えていけるように、思春期の性の現状を訴え続け、若者たちに対しては、役に立てる行動を出来る限り、長く、とり続けていきたいと考えています。